

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	養父市の未来を語るタウンミーティング		
期 日	令和5年7月31日（月） 午後7時30分～午後9時15分		
場 所	伊佐ふれあい倶楽部（伊佐校区自治協議会）		
出席者	校区民	33人（うち女性2人、オンライン参加3人）	
	市幹部	広瀬市長、山下副市長、坂本危機管理監、圓山技監、井上部長、世登部長、雲田部長	
	特区政策課	安達課長、雲田主事	
	担当チーム（市）	川瀬、安達、長谷川、柏木	
<p>1. 開会 安達課長</p> <p>2. 地域代表あいさつ 伊佐校区自治協議会 木村会長</p> <p>3. 市長あいさつ 広瀬市長よりあいさつ及び養父市のまちづくりについて概要説明</p> <p>4. 各部局の経営計画について 各部局長より令和5年度経営計画の説明 坂本危機管理監、圓山技監、井上部長、世登部長、雲田部長</p> <p>5. 意見交換</p> <p>■■■■■：今日は説明がなかったが、農業特区は制度が終わったのか。オリックスファームも撤退したと聞いている</p> <p>広瀬市長：農業特区は引き続きしっかり取り組んでいる。担い手が高齢化していることと新規就農者が少ない。農地が荒廃している現実の中、何とか解消していきたいとの思いで規制緩和により多様な担い手を確保したいと考えた。その一つとして企業が農地を取得して農業に参加するような手法をとっている。今年の8月に国家戦略特区の期限を迎えるため、先日の国会で審議され、養父市だけではなく、養父市以外で取り組もうという自治体も取り組めるようになった。条件的にはハードルが高いところはあるが、また新たな一歩を踏み出したと思っている。</p> <p>特区の中でオリックスファームが撤退ということになったが、引き続き後継者を確保してノウハウを伝授しながら従前のまま事業を行っている。 できれば定期的にこういった情報公開を行っていきたい。</p> <p>■■■■■：浅間区内の河川改修の要望を昨年度も質問したがその結果がわからない。毎年意見を言わなければならないのか、大きな案件でないと止まるのか。状況が伝わってこないのできちんと反応が欲しい。</p> <p>広瀬市長：各地域からいろんな要望をいただく中、社会資本整備に関する要望が一番多い。河川の改修は県（土木）であり、要望は伝えている。当然、市は県管轄の河川を直したり、砂防ダムを造ることが出来ない。また、近年頻発する大きな災害があれば、そちらの復旧に集中して投入する必要があるのになかなかほかの事業に予算が回ってこない。毎年、地域からの要望があろうとなかろうと、県には要望している。ただ毎年地域の要望をいただくとより地域の熱意は伝わっていきやすいのではないかと思っている。</p> <p>それから、要望出したけど回答がないという件は、最近では地域域から要望があると一週間以内ぐらいにはしっかりと回答しようと努めている。回答できない場合でも、地域</p>			

の区長さん方と連絡を取って、現地の確認をして現況確認をしている。

圓山技監：浅間川と西川に堆積土砂があり、管理が大変だというご要望。実際そのような場所が市内には多くあり、現地の確認とともに緊急性、事業費のこともあるが、優先順位をしっかりと確認して、今年度は予算の中でのそういった土砂を撤去するということは難しいので、来年度にはこの土砂撤去するとか、区長さんの方にお伝えするので、もうしばらく待っていただきたい。

次に、ふるさと農道のトンネルの中の照明が暗い点について、トンネル部分の管轄は豊岡市になっており、照明に関しては、すでにLED工事の発注をされており、今年度中にはできると聞いている。また、道路上のラインについては、外測線は豊岡市で対応することになるが、中央線は公安の管轄になるので、早急をお願いするというところでお答えをいただいているところ。

県道の草刈りについては、最近年1回ということで県も実施しているが、この状況をも踏まえて、再度県の方をお願いをしたいと思っている。もう一つは、車や歩行者が安全して、安全に通行できる道路の空間を維持するという観点から、この草刈りの範囲については、道路区画内にとどまることをご理解いただきたいと思う。

■■■■：農業について若い者と農業について話す機会があった。伊佐は比較的作りやすい農地だと思っており、現在他地域からも入ってもらい何とか維持している状況であるが今後はわからない。農会などの既存の組織や農業の担い手も減少しており出口が見えない状況である。地域の農業を維持するためにはどうすればいいのか。農地保全はどうすればいいのか考えを聞きたい。

広瀬市長：農地の維持はしなくてはいけない。農業を中心に人が集まって地域が出来ている。農業を中心とした文化から始まっている。しかし、養父市だけではなく全国どこでもこのような問題は起きている。今は社会が変わってそれだけでは生活が出来なくなり、後も継がなくなった。70年前に作られた制度のまま引きずって農業をしている。変わった社会で担い手が確保できる知恵を出すのが我々人間だと思っている。そのために規制改革をやってきた。養父市では企業が入ってきて一生懸命やってもらうことでもいいのではないかと。自分たちでできなければ誰かに農地を耕してもらうことが必要ではないか。

企業の参入に反対の方が多くいる。養父市の市長の自己満足じゃないかっていう意見があるが、それに甘んじていたら、何も変わりません。誰かがしっかりと変えていかないと。特区の事業者農地で耕作放棄地約30ヘクタールを回復した。農業生産額2億9000万円稼いでます。雇用は100人以上と成果は出している。

出口が見えないところというのは事実だと思う。一生懸命やっているのが養父市だと考えていろんな規制改革と一緒に乗っていただいたらありがたい。国もいろんなことをやっている。地域計画を作ったり、農協のあり方、農地保全や施設をどう守っていくかなど参考にしていきたい。

平坦で大規模集積できるところはいいが、諸条件悪いところは工夫して、例えば高収益なものを作るのだとか、そういうことも考えている。今の農家だけでやるのも問題があり、資本力も必要だし、技術力も必要だし、それから経営力も必要だし、私はやっぱり企業にもしっかりと農業参入してもらうのが良いと考えている。勇気を持って戦わないと我々のこのすばらしいふるさととは守れない。地域の人が力を貸してほしい。

■■■■：こちらに帰る前 42、3 年前なんですが、瀬戸内に住んでおり、仕事に行っていて意外なことを聞いたんですが、八鹿高校事件というのがその当時あったんですけど私はこちらに帰るまであまり知らなかった。テレビと新聞しかない時代で、自分の娘の向こうの家からあなたの家は同和地区なんですかという電話がありました。最近でもネット検索すればそのような情報が出てきて、どういう意図で作ったといえれば同和地区とその被害者の方との和解というかそういうものに向けての投稿だったと思うんです。逆にそれが悪い方に作用してしまい、八鹿が同和地区なんだと世間一般にみられているようです。

4 年ほど前に市民課から私宛にそういう教育に理解してくださいという書類が来ました。1 回問い正したことがあります。そういうネットの情報というのは削除されないし、市民課がそういうことを取り扱っているというのは、私は考え直して欲しいと思う。広瀬市長：人権問題としての、本当は差別問題。八鹿でそういう事件があったということで非常に衝撃を受けた。

養父市だけの、八鹿だけの問題ではなく、全国の問題としてまだ残ってる。なぜ人はこんなに業が深いのかなと私自身、役所に勤めながら思う。人は差別をすることによって、自分の満足感を得たりするかなと思うが、実際そんなことあってはならない。そのことを今養父市でも根深いものがあるということで、努力している。

市民課が、もし■■■■さんに何か文書を送っていたとしたら、人権差別に対する市民の意識調査やアンケート調査だったのかと思う。現に養父市はそういう取り組みをしっかりとやっているということをご理解いただきたい。無意識ということではない。

八鹿高校事件は、そういう意味での歴史的な事件である。

■■■■さんが仕事で、どこか遠くにおられてそのことを知らなかったということ自身が、それは幸せなことだったのかもしれませんが、養父市に帰ってきてそのアンケートなどが届いた時に、自らも考えていただくことが必要なのではないかなと思う。今日、お集まりの皆さんにもお願いしたい。

8 月は差別を無くする月間ということで、人権講演会を 8 月 6 日に行う。素晴らしい講師が来ていただけるので皆さんもぜひ声を聞いていただいて、人権差別のない、人々が本当に幸せに暮らせるまちづくりをしていきたいと思っている。

## 6. 閉会 山下副市長